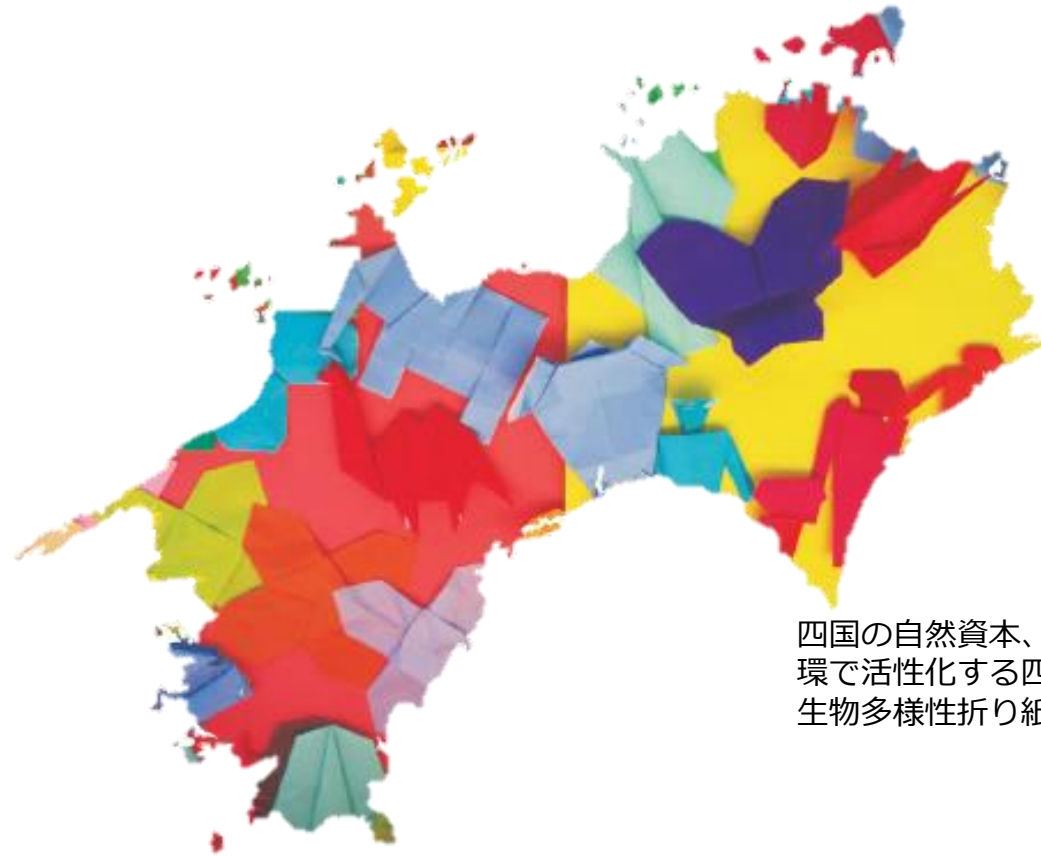


四国の
「地域循環共生圏」を
創造する！

ローカルSDGs四国（LS四国）概要



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS
世界を変えるための17の目標



四国の自然資本、豊かな自然環境を保全しながら、地域循環で活性化する四国の未来を創造することをイメージして、生物多様性折り紙を使った四国地図を使っています。

令和3年2月17日

環境省中国四国地方環境事務所四国事務所
四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）

LS四国 準備段階 これまでの取組

2019年



2月（徳島県、約30名）
地域の特徴を活かした持続可能な商品開発
に向けたワークショップ



4月（四国4県）
事業開始準備：4県の協働団体との
協働体制の確立に向けた事前説明



5～7月情報収集、ヒアリング
（四国4県20カ所）
協働団体との打ち合わせにより20カ所のヒ
アリング先を選定、訪問による情報収集



8月（香川県、約80名）
第1回四国地域ブロック会議設立準備会議
（ESG金融高松キャラバンとの連携開催）

2019年



11月（高知県、約30名）
持続可能な商品開発のための研修
ものづくり、ことづくりに焦点をあてた関係
者共有の場づくり、SDGs実施指針パブリッ
クコメント勉強会同時開催



12月（愛媛県、約100名）
地域循環共生圏構築にむけた地域フォーラム
脱炭素化・SDGs構想との連携による地域循
環共生圏全体構想の共有、愛媛県中小企業家
同友会共催、四国内同友会の後援他、経済界
との連携

2020年



1月（徳島県、約30名）
第2回四国地域ブロック会議設立準備会議
四国財務局の広報支援
阿波銀行SDGs私募債等取組紹介



2月（愛媛県、約50名）
SDGsフェス in 西条
森里川海・流域連携ミーティング

今までご協力いただいたみなさま

協働団体

【徳島県】 生物多様性とくしま会議

【愛媛県】 （特活）森からつづく道

【香川県】 ナチュラリストネットワークかがわ

【高知県】 高知生物多様性ネットワーク

ヒアリング団体（順不同）

【徳島県】 阿南市市民部環境保全課、佐那河内村産業観光課、石井養鶏農業協同組合、つるぎ木材加工協同組合、阿南工業高等専門学校創造技術工学科化学コース、四国大学短期大学部ビジネス・コミュニケーション科、(株)阿波銀行営業推進部地方創生推進室、経営統括部バリュープロジェクト室、（一社）徳島地域エネルギー、小松島市生物多様性農業推進協議会

【香川県】 香川県環境森林部環境管理課・環境政策課、香川県環境管理課里海グループ、環境政策課環境マネジメントグループ、香川県中小企業家同友会環境部会、（独）国際協力機構四国センター（JICA四国）、香川大学地域連携・生涯学習センター、穴吹エンタープライズ（株）、(株)瀬戸内オリーブ、FAAVOかがわ（富士建設(株)）、大野豆プロジェクト

【愛媛県】 愛媛県農林水産部森林局森林整備課、内子町小田支所、四国西予ジオパーク推進協議会、愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科農山漁村マネジメントコース、愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科、愛媛県立上浮穴高等学校、（株）武田林業、（有）内藤鋼業、愛媛信用金庫、（特活）由良野の森

【高知県】 香美市教育委員会、高知大学地域協働学部、室戸ジオパーク推進協議会、（株）土佐山田ショッピングセンター、(株)四国銀行、(特活)いなかみ、（特活）大月地域資源活用協議会、（特活）黒潮実感センター、（一社）小水力協議会

環境・社会・経済の統合的向上が不可欠



(株)インターリスク総研より資料提供

SDGs "wedding cake" illustration presented by Johan Rockström and Pavan Sukhdev

社会活動と経済活動は、自然資本を基盤に成り立っているもの

SDGsは環境・社会・経済に統合的に対応することを求めている。

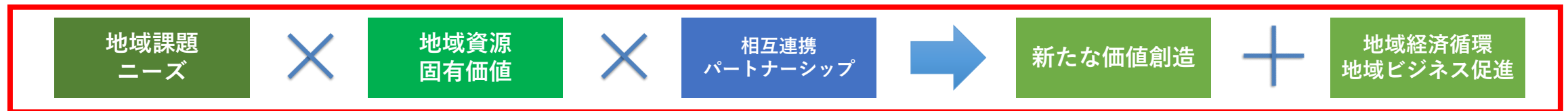
→ **Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development**

ローカルSDGs（地域循環共生圏）とは

各地域がその特性（課題・ニーズ）に応じ、**地域資源**を活かし、**自立・分散型の社会**を形成しつつ、近隣地域と補完し、支え合うことで創造。
環境・社会・経済の統合的課題解決により**脱炭素**と**SDGs**が実現した、魅力あふれる**地域社会像**。

■「ローカルSDGs」創造の重要なポイント

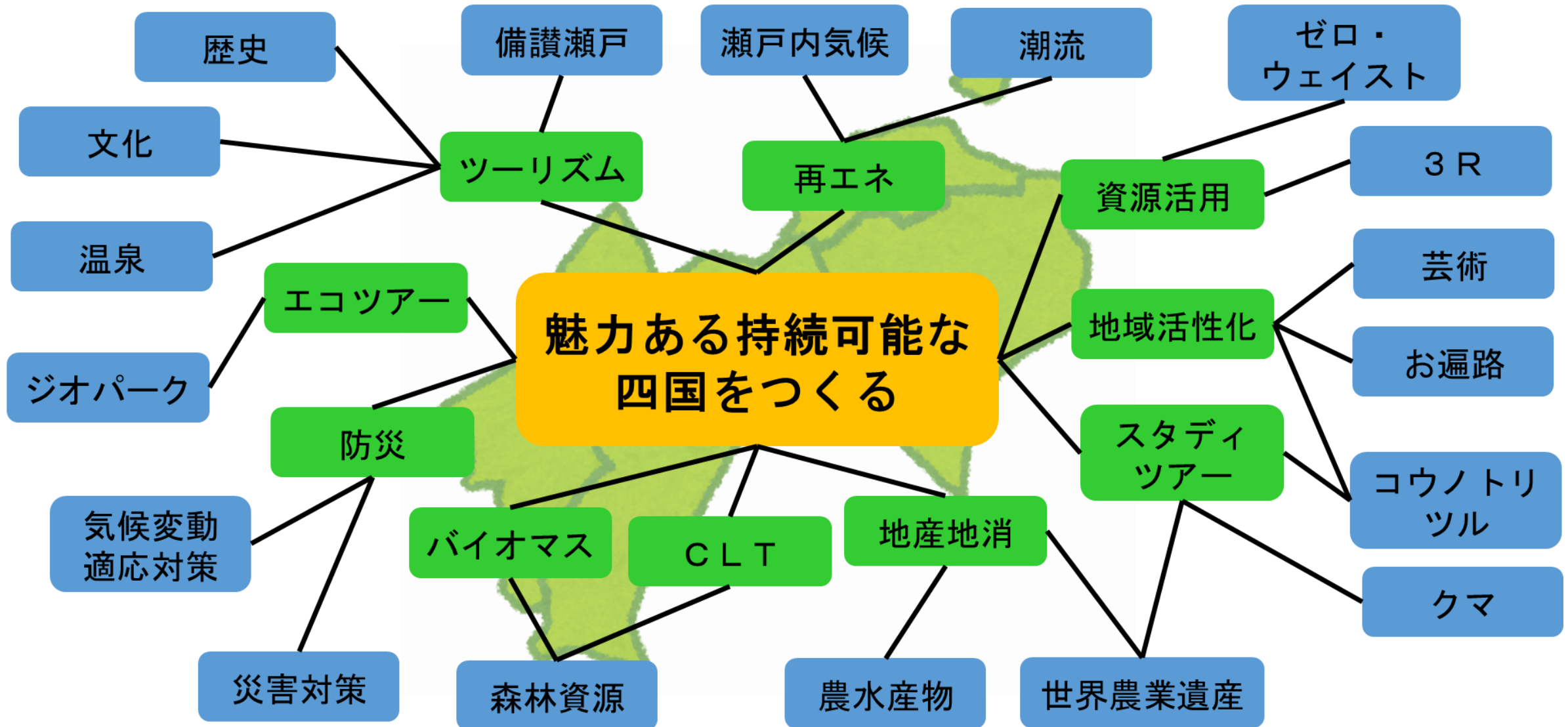
- ✓①**地域課題とニーズを適確に捉え、②対応する地域資源を発見・活用し、③縦割りを超えた新たなパートナーシップを形成、地域連携を深化させ、④新たな価値を創造し、地域経済循環を向上させる**
- ✓更に、「**テクノロジー×デザイン**」で課題を克服しつつ魅力を上げ、異分野との連携により「**単一的取組から多面的取組**（統合的課題解決）」に深化させていく



■地域循環共生圏は、ローカルビジネスの創出や、地域経済の活性化・経済循環拡大にも大きく貢献

■Society5.0も活用し更なる異分野連携や統合的課題解決を地域ビジネスベースで進められるよう環境省もプレーヤーとして最大限活動

四国にある地域循環共生圏のタネ



重層的に圏域で構成されるローカルSDGs（地域循環共生圏）

国際

- ・レアメタル等、高度なリサイクル技術を要するものの循環利用
- ・インバウンド観光の交流
- ・バリューチェーンを通じた環境負荷の低減

ブロック内・国内

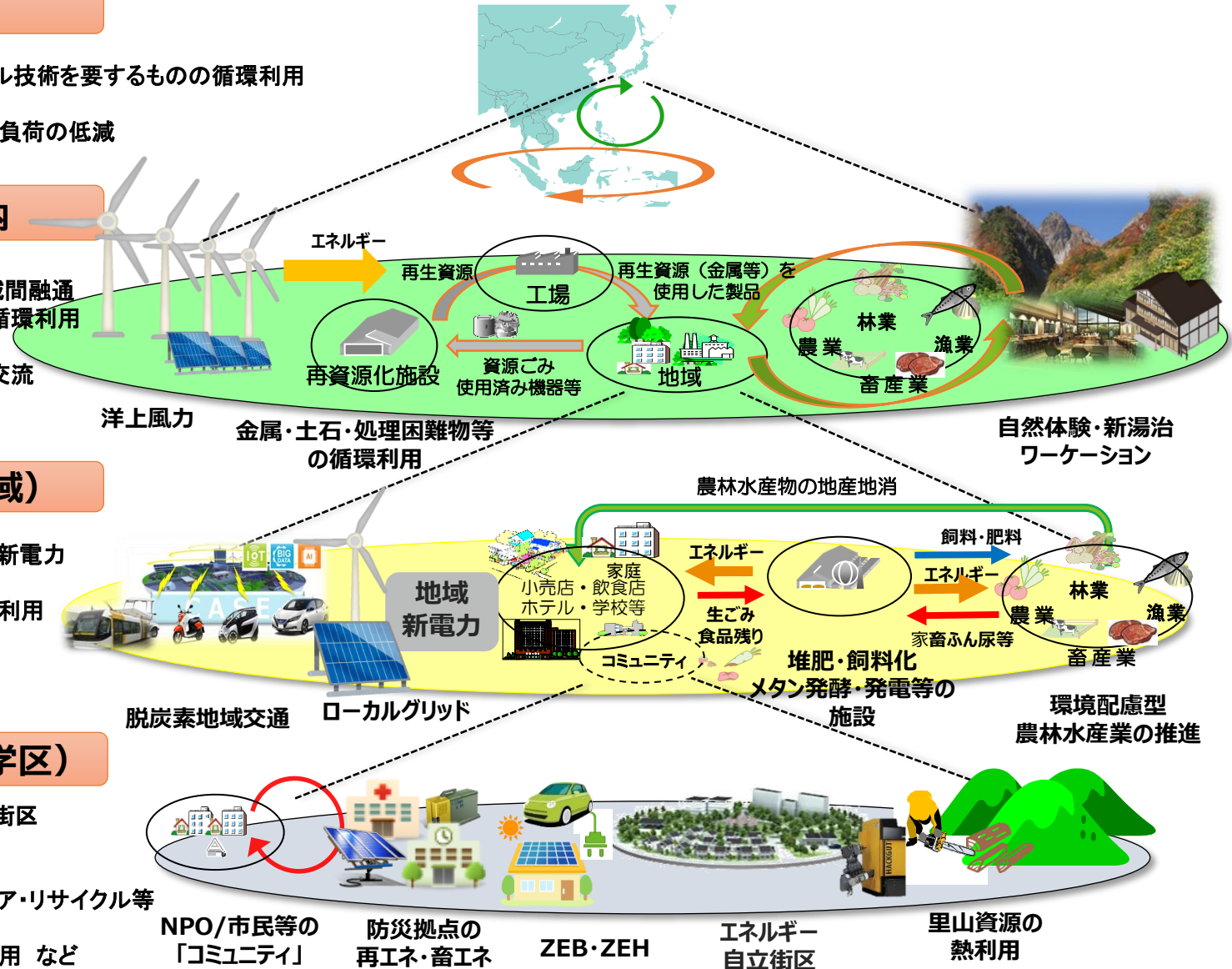
- ・再生可能のエネルギーの地域間融通
- ・金属・土石・処理困難物等の循環利用
- ・都市と地域の交流
- ・生きがい・働きがいのための交流
- ・農林水産物の国内消費

地域（市町村・流域）

- ・エネルギーの地産地消・地域新電力
- ・脱炭素地域交通
- ・バイオマス資源のエネルギー利用
- ・環境保全型農業
- ・農林水産物の地産地消

コミュニティ（集落・学区）

- ・自営線によりエネルギー自立街区
- ・ZEB・ZEH
- ・防災拠点の再エネ・畜エネ
- ・生活圏におけるリユース・リペア・リサイクル等
- ・廃食用油のバイオ燃料利用
- ・里山の木質バイオマスの熱利用 など



ローカルSDGs四国とは

背景

四国は、急速に進行する人口減少や高齢化、大規模自然災害の発生などにより、地域の存続に関わる難題に直面しており、次世代に伝えたい地域資源や固有価値、私たちの日々の暮らしや産業活動にまでも影響を与えている。

このような四国の地域課題を解決し、地方創生の成果を確かなものとし、持続可能な地域づくりを進めていくためには、「地域循環共生圏＝ローカルSDGs」の達成に向けた取組を積極的に推進することが重要であると考え、この度、この取組を推進するプラットフォームとして「**ローカルSDGs四国（略称：LS四国）**」を立ち上げることとした。

ビジョン

いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

自然資源の恵み・つながりを活かし、伝え
地域・社会がそれぞれの特性を発揮しながら、連携して支え合い
SDGsの目指す環境・社会・経済の調和を図りながら持続発展する
活力あふれる四国地域の創造

行動指針

ビジョンを達成するためにローカルSDGs（地域循環共生圏）の考え方を尊重し行動します。

（ローカルSDGs（地域循環共生圏）創造の重要ポイント（一部改変））

- ✓ ①地域課題とニーズ・シーズを適確に捉え、②対応する地域資源を発見し、自然資本を損なわないように活用し、③ あらゆる障壁を超えた新たなパートナーシップを形成、地域連携を深化させ、



④地方創生に資する新たな価値を創造し、地域の人・もの・資金・情報の好循環（地域経済循環）を創出する。

- ✓ 多様性（ダイバーシティ）を認めつつ「テクノロジー×デザイン」で課題を克服しつつ魅力を上げ、異分野との連携により「単一的取組から多面的取組（統合的課題解決）」に深化させていく。

この考え方に留意して以下の取り組みを進めます。

- 1) ローカルSDGsの考え方を実践する場づくりを進めます。
- 2) ローカルSDGsの視点をもった創り手の発掘、育成を進めます。
- 3) イノベーションの導入やESGの視点を取り入れたビジネスの創出及び地域経済循環の向上を目指します。
- 4) 自然と人が共生する循環型社会を構築し、脱炭素化へのパラダイムシフトを進めます。

LS四国は四国地方の経済・社会の活性化（sustainabilityの実現）に直接貢献

●目的

企業、金融機関、NPO等活動団体、大学・研究機関、有識者、行政等が有機的に連携し、環境、社会、経済それぞれの課題に、ESG等の視点を導入して同時解決に取り組み、自然資本を損なうことなく活用しつつ次世代に継承し、ローカルSDGs（地域循環共生圏）の達成に向けた魅力ある四国を創ること

●取組内容

・地域課題解決に向けた支援

①地域課題解決の深掘り、マッチング支援、②協力団体・企業の先進事例紹介

・情報収集・発信・共有

①フォーラム・勉強会・交流会等の開催、②HPでの発信、メルマガ・SNSの活用、表彰制度

・ローカルSDGsの視点をもった創り手の育成

分科会活動支援、研修、講演

●設立時期

令和2年度中に立ち上げ、令和3年度より本格的に活動開始（令和3年2月17日に設立）

●会員

本会の趣旨に賛同する産学官民金の団体及び個人

LS四国 機能・構成

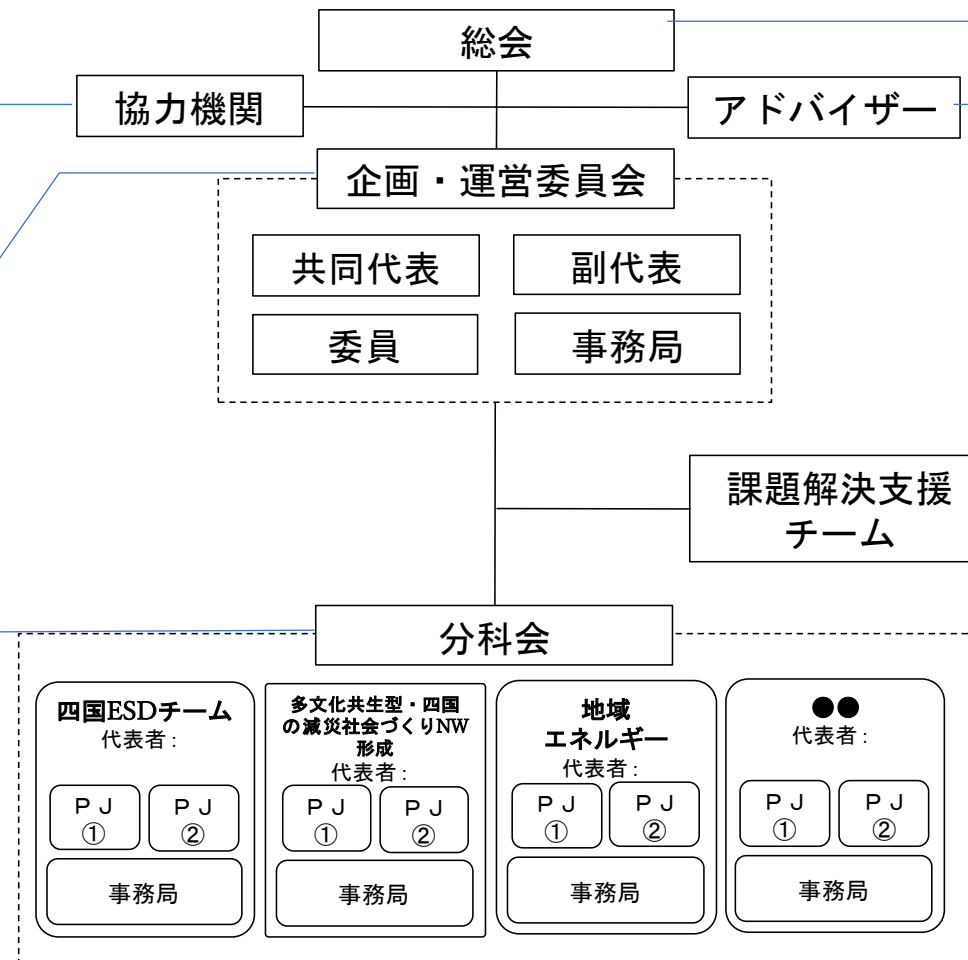
LS四国は、趣旨に賛同する団体及び個人の会員で構成する。当面の間、会員の会費は無料とする

組織図

LS四国に連携・協働し、有益な助言、協力及び支援を行う団体。

活動計画の策定、会員・分科会関係などの審議、フォーラム等の企画立案などを行う。
※分科会から適宜出席

ローカルSDGsの実行役。
自立型でテーマに沿った様々なプロジェクトを実施する。



LS四国の方針の決定などを行う。

LS四国に有益な助言を行う個人。

企画・運営委員会に連携・協働し、課題解決に向けた課題深掘り・マッチング及びESG推進、並びに助成及び投融資等の支援を行う。

企画・運営委員会の運営体制

共同代表

村田 武（(株)愛媛地域総合研究所代表取締役、九州大学名誉教授）

酒向 貴子（環境省中国四国地方環境事務所四国事務所長）

副代表

島田 治男（香川県中小企業家同友会 副代表理事）

小林 秀弥（（独）国際協力機構四国センター（JICA四国）所長）

委員

谷川 徹（四国生物多様性ネットワーク事務局）

笠井 誉子（（株）r e クラレット代表取締役、（特非）徳島の働く女性を元気にする会理事長）

徳島県、香川県、愛媛県、高知県

事務局

環境省中四国地方環境事務所四国事務所

四国環境パートナーシップオフィス

LS四国 年間スキーム

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

適宜、フォーラム、勉強会・交流会等を開催

企画・運営委員会

※年に数回開催予定。また、必要に応じて報告会（定例会）を開催
※総会については、年に一回程度開催

立上げ

改廃

※立ち上げ、改廃のタイミングは、
年内どのタイミングでも良い

活動報告
(※必要な場合)

活動
報告

分科会

(分科会リーダー、分科会事務局等を中心に開催)

事業化へのスキーム

活動目的共有

資金調達
協働パートナー

各種勉強会
実証事業等

事業化

必要に応じ、アドバイザー等の支援を得て対応

✓ SDGs/ESGを知り、体験でき、SDGs人材の育成ができる

例) SDGs/ESGが何かを知る・体験することができる勉強会の開催

SDGs/ESG経営を自分事化することでどんなビジネスチャンスが生まれるかの先進事例の紹介

多様なビジョンを持ち、主体的に地域課題解決に取り組む人材（SDGs人材）の育成の場の提供

✓ 地域課題解決に向けたマッチングチャンス（支援）

例) 地域課題解決に向けた課題の深堀り、マッチング支援

アドバイザーや協力機関などからの助言・協力

✓ 情報収集・発信・共有

例) 官公庁や支援団体からの助成制度等の紹介

HPやSNSなどでの会員の皆様の四国内外への情報の横展開

SDGsやESGの取り組みに対しての表彰制度による評価の見える化

✓ 課題解決に向けた仲間づくり・ネットワークづくり

例) 分科会などで同じ地域・テーマで課題解決に向けて頑張る仲間づくり・ネットワーク構築

**当面の間、
会費は無料！**

LS四国で皆様と一緒に取り組みたいこと *Let's take action !*

地方自治体（県・市町村）

- ①顕在化している地域課題や取組状況に関する情報提供
- ②関連する行政計画や方針等に関する情報提供
- ③LS四国から得られた知見・気づき等を自身の行政に反映
- ④課題解決に向けて自身のネットワークを通じたつなぎ機能の発揮

地域金融機関

- ①顧客等を通じて得られた地域課題に関する情報提供
- ②マッチングやESG金融の実践による地域課題の解決支援
- ③地域課題解決型ビジネスを行う事業者への融資等の支援

企業・各種産業

- ①事業に影響を及ぼす外部環境（課題）に関する情報提供
- ②IoTの活用等による地域課題解決型ビジネス、SDGs/ESG経営の実践
- ③SDGsの実践を通じた持続可能な地域社会構築への貢献
- ④地域課題解決に向けた技術・ナレッジの協業

教育・研究機関、有識者等

- ①それぞれの分野・役割に関して専門的な立場からの知見の提供
- ②若手のSDGs人材育成への協力
- ③地域との連携
- ④若者の柔軟な意見
- ⑤ESD for 2030へ向けた実践
- ⑥Society5.0、DXの普及啓発

官公庁

- ①各主体が参加できる場の提供と運営支援
- ②課題の掘起しや解決等に関する各行政分野からの情報提供
- ③課題解決に資する補助制度等に関する情報提供
- ④ローカルSDGs、ESG金融、地域課題解決、地方創生、中小企業支援等へ知見提供
- ⑤課題解決に向けて自身のネットワークを通じたつなぎ機能の発揮（ハブ機能）

NPO・公民館等

- ①事業に影響を及ぼす外部環境（課題）に関する情報提供
- ②地域課題解決型コミュニティビジネスの展開
- ③SDGsの実践を通じた持続可能な地域社会構築への貢献、社会教育との連携
- ④地域課題解決に向けた技術・ナレッジの協業

会員になりたい！

もしくは

先行の各分科会に協働して取り組みたい！

分科会を立ち上げたい！

という主体（団体）様を募集します

【先行分科会】

- ① 四国ESDチーム、② 地域エネルギー、
- ③ 多文化共生・減災ネットワーク



● 四国EPOホームページ> ローカルSDGs四国キックオフフォーラム（2/17）
<https://4epo.jp/information/events/20750.html>

【問い合わせ先】

- 環境省中国四国地方環境事務所四国事務所環境対策課
TEL: 087-811-7240、Eメール: MOE-SHIKOKU@env.go.jp
- 四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）
TEL: 087-816-2232、Eメール: 4epo@4epo.jp

Coming soon!
ローカルSDGs四国
ホームページ
まもなく公開予定！

ローカルSDGsで実現する 四国の持続可能な地域社会

大学院大学・至善館
幸せ経済社会研究所
株式会社 未来創造部

枝廣淳子

1

関わりのある地域

- 静岡県・熱海市
- 北海道・下川町
- 熊本県・南小国町
- 徳島県・上勝町
- 島根県・海士町
- 北海道・美瑛町
- 岩手県・陸前高田市
- 石川県・宝達志水町
- 宮城県・気仙沼市
- 北海道・ニセコ町
- 宮城県・南三陸町
- 佐賀県・佐賀市
- 岡山県・北長瀬地区
- 熊本県・黒川温泉
- 宮城県・石巻市
- 新潟県・柏崎市
- 岡山県・西粟倉村
- 英国・トットネス
など

2

未来は地域にしかない!

3

日本の各地を見てきて思うこと

二極化が進みつつある

①元氣と勢いの感じられるイキイキした町

新しい動きが次々と

移住者がどんどんと

②よどみ感の広がる活力の感じられない町

あきらめ・投げやり感 「どうせ自分の世代でおしまい」

若い世代は出て行き戻ってこない

移住者も入ってこない

4

「持続可能で幸せなまちづくり」に必要なもの

①「ぶれない芯」
=地域の未来の共有ビジョン

②外部に依存しすぎず、
持続できる地域経済

5

①ぶれない芯
=地域の未来の
共有ビジョンをつくる

6

まちづくりの3ステップ

ホップ：ビジョン（バックキャスティング）

未来の望ましい町の姿を描く

2通りのビジョンの作り方



北海道下川町の取り組み

面積:644.2km²

約 9 割：森林

人口：約3,200人

環境モデル都市、環境未来都市、SDGs未来都市

9



2030年における下川町のありたい姿 ～人と自然を未来へ繋ぐ「しもかわチャレンジ」～



(1) みんなで挑戦しつづけるまち

危機や困難に挑戦し続ける不屈の精神や多様な人々、価値観を受け入れる包容力、寛容性などの「下川らしさ」を体現するまち

(2) 誰ひとり取り残されないまち



すべての人が可能性を拡げ続けられ、居場所と出番があり、健やかに生きがいを感じて暮らせるまち

(3) 人も資源もお金も循環・持続するまち



人・自然資源（森林・水など）・お金などすべての永続的な循環・持続、農林業など産業のさらなる成長、食料、木材、エネルギーなどの地消地産により、自立・自律するまち

(4) みんなで思いやれる家族のようなまち



人とのつながりを大切に育み、お互いを思いやり、支え合って、安全で安心して住み続けられるまち

(5) 引き継がれた文化や資源を尊重し、新しい価値を生みだすまち



古くても大切なものは守り、新しい価値を生み出す「温故起新」のまち

(6) 世界から目標とされるまち



下川町のこれまでの取り組みを基盤に、さらに進化・深化させ、脱炭素社会の実現（パリ協定）や世界の持続可能な開発（SDGs）の実現に寄与するまち

(7) 子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち



子どもたちがいきいき伸び伸びと成長するよう、すべての未来世代のことを考え、地域全体で育むまち

まちづくりの3ステップ

ホップ：ビジョン（バックキャスティング）

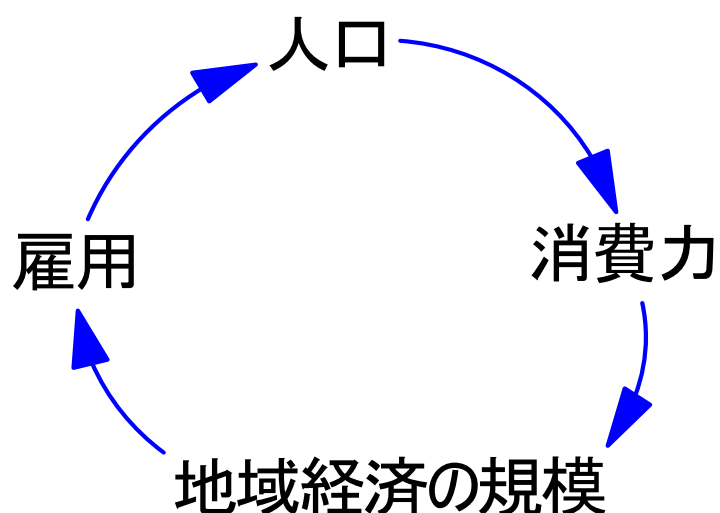
未来の望ましい町の姿を描く

ステップ：つながり（システム思考）

つながりをたどって現状の構造を理解し、望ましい好循環を描く

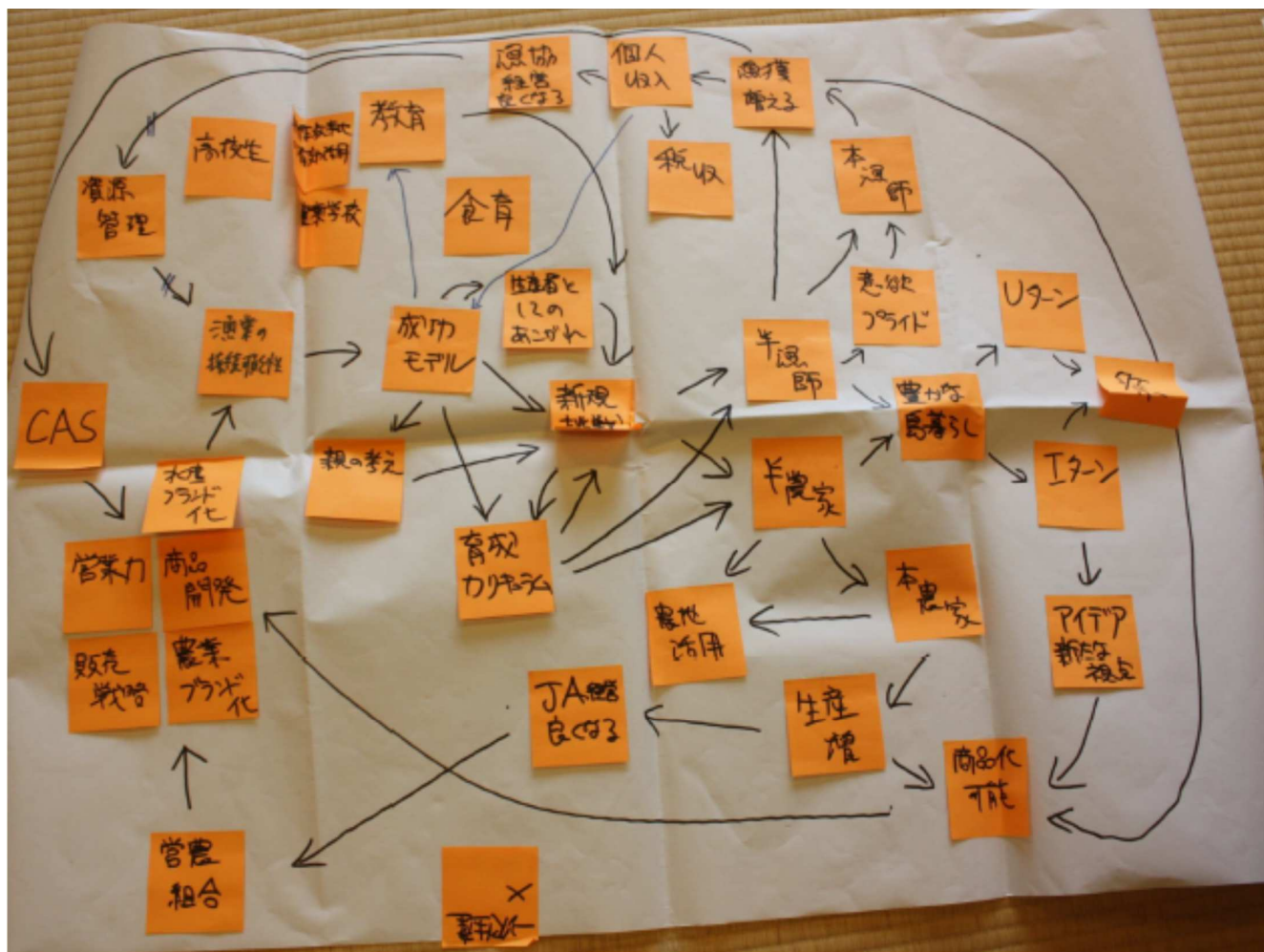
13

たとえば

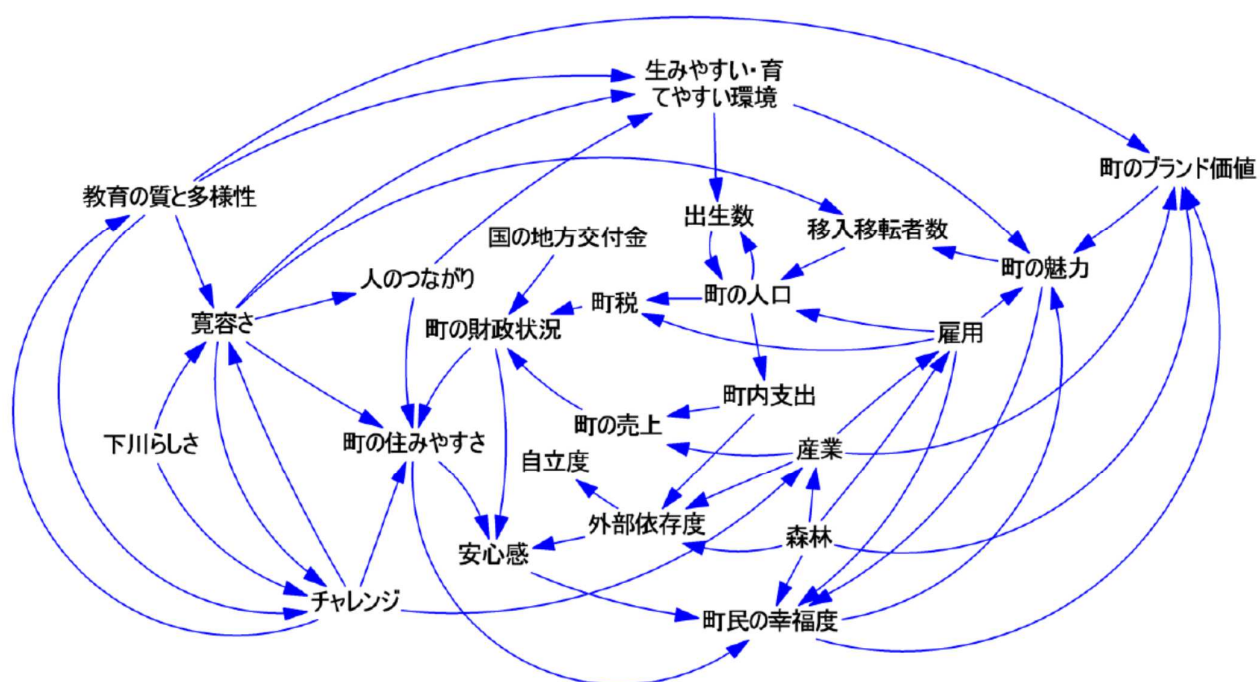


システム思考のループ図で表すと

14



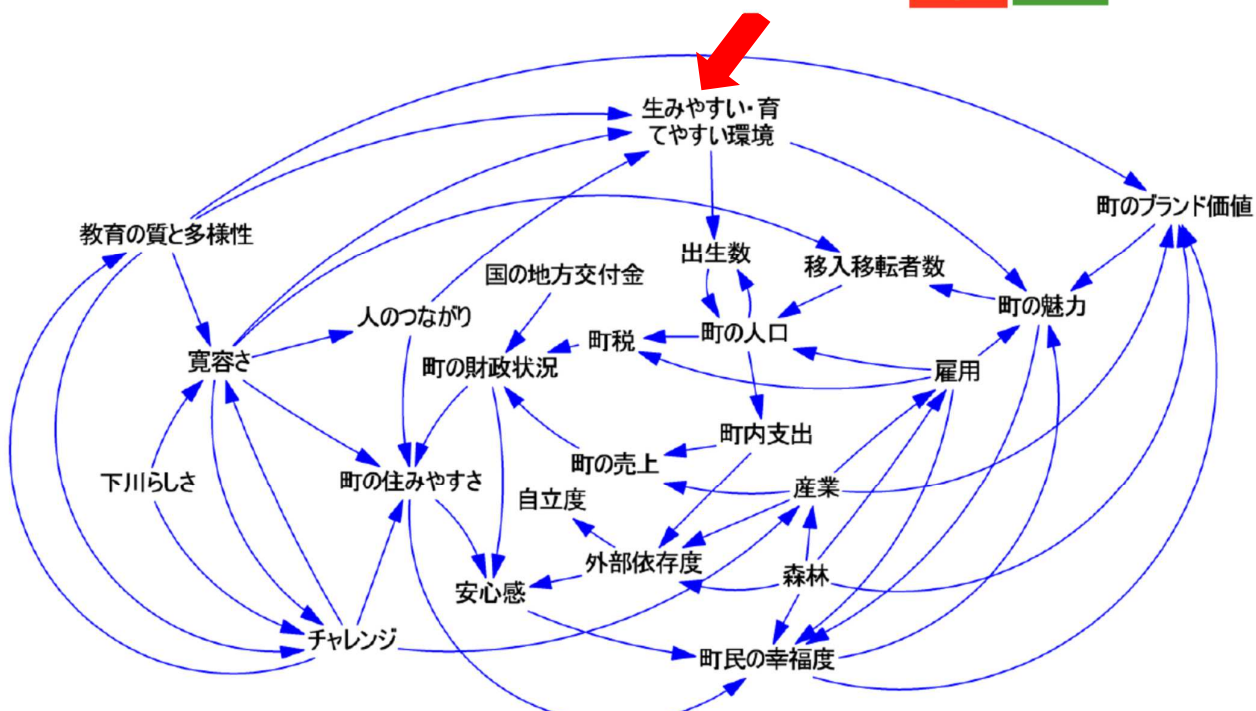
2030年における下川町のありたい姿のループ（つながり）図



2030年における下川町のありたい姿のループ（つながり）図

【事業（打ち手）案】

■あんしん子育てサポートシステム構築事業



まちづくりの3ステップ

ホップ：ビジョン（バックキャスティング）

未来の望ましい町の姿を描く

ステップ：つながり（システム思考）

つながりをたどって現状の構造を理解し、望ましい好循環を描く

ジャンプ：変化（プロジェクト）

悪循環を断ち、好循環を強めるプロジェクトを立案・実行する

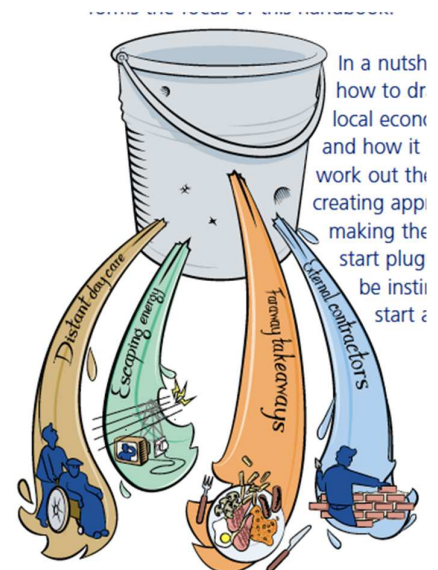
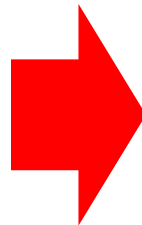
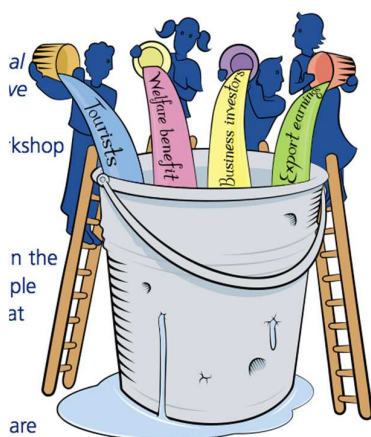
共有ビジョンに支えられて



②外部に依存しすぎず、
持続できる地元経済を創る！

21

漏れバケツモデル



大事なこと

「お金をひっぱってくる」

+

「地域に入ったお金をどれだけ滞留・循環させるか」

地域に入ったお金を 地域内でぐるぐる回す効果

「地域内乗数効果」

23

「域内循環アップ！」の効果

1万円が地域に入ったとき

入ったお金の**20%**しか
地域に残らない場合

- 1 巡目：10000円→2000円
- 2 巡目：2000円→400円
- 3 巡目：400円→100円
- 4 巡目：100円

最終的には約**12,500円**

入ったお金の**80%**が
地域に残る場合

- 1 巡目：10000円→8000円
- 2 巡目：8000円→6400円
- 3 巡目：6400円→5100円
- 4 巡目：5100円→4100円
- 5 巡目以降……

最終的には約**50,000円**

地域経済の鍵＝

「漏れバケツ」の穴をふさぐこと

地域の隅々まで、環流させる
こと

取り組み事例 北海道・下川町

地域から漏れ出すお金を減らそう！
町の産業連関表を作成

地域経済の実情がわかった！

- 下川町の「GDP」、つまり町の経済規模（域内生産額）：215億円
- 域際収支：地域の産業の強みと弱みもわかる
- 黒字部門：製材・木製品（約23億円）と農業（約18億円）
- 赤字部門：エネルギー代（約13億円）：暖房用の灯油などの石油・石炭製品（約7.5億円）、電力（約5.2億円）

※町の歳入は60億円弱（平成27年度）

27

漏れをふさいだ場合の経済効果

電力と暖房用燃料を、下川町にある森林などからの木質バイオマスでまかなうことができれば

- エネルギー購入費の合計13億円の赤字がゼロに
- 木質バイオマスエネルギー用の燃料をつくるために、町内の林業や林産業などの関連産業も活性化
- その波及効果も含めると：域内生産額が**28億円増加**し、**100名の雇用**を生み出す

※町の自主財源である町税は約 3 億円

28

この結果をもとに取り組みを進める

- 暖房用の灯油などの石油・石炭製品を、地域資源であるバイオマスエネルギーで置き換えよう
- 間伐材、枝打ちした枝、加工プロセスから出る端材などを原料に、木材チップを製造
- バイオマスボイラーで熱を生産し、町内の施設に供給、100%下川町産の熱エネルギー！

29

移行に伴う課題への対応

- 暖房の燃料を灯油から地元の木材チップへ切り替え
- これまで灯油を売って生計をたてていた人々は？
- 反対したとしても、無理ない

そこで

- 灯油を販売している4つの灯油組合に、バイオマスエネルギーを供給する協同組合を作ってもらい、バイオマス原料の製造と配達を担当してもらっている

<誰一人取り残さない>

<気候正義、公正な脱炭素シフト>

30

現在

- 13基のバイオマスボイラーが地域に熱を供給
- 下川町全体の熱自給率は**56%**
- すでに**年2.4億円以上**の流出を止めている
- 全町の**CO2を20%削減**
- 今後：熱100%自給、電力の自給へ
- 豊富な熱を利用した産業・起業へ

31





新規産業・人口社会増の好循環

豊富な熱資源・森林資源を活用した新規産業

◆ 温室によるシイタケ栽培（年商7000万円～）

◆ 木工作家

◆ 薪屋

◆ トドマツ精油

◆ エゾシカ加工

などの挑戦

- ・ UターンやIターンが増加
- ・ 年間200人以上が転入
- ・ 就学や就職等による転出者数 < 転入者数

35

持続可能な循環型森林経営

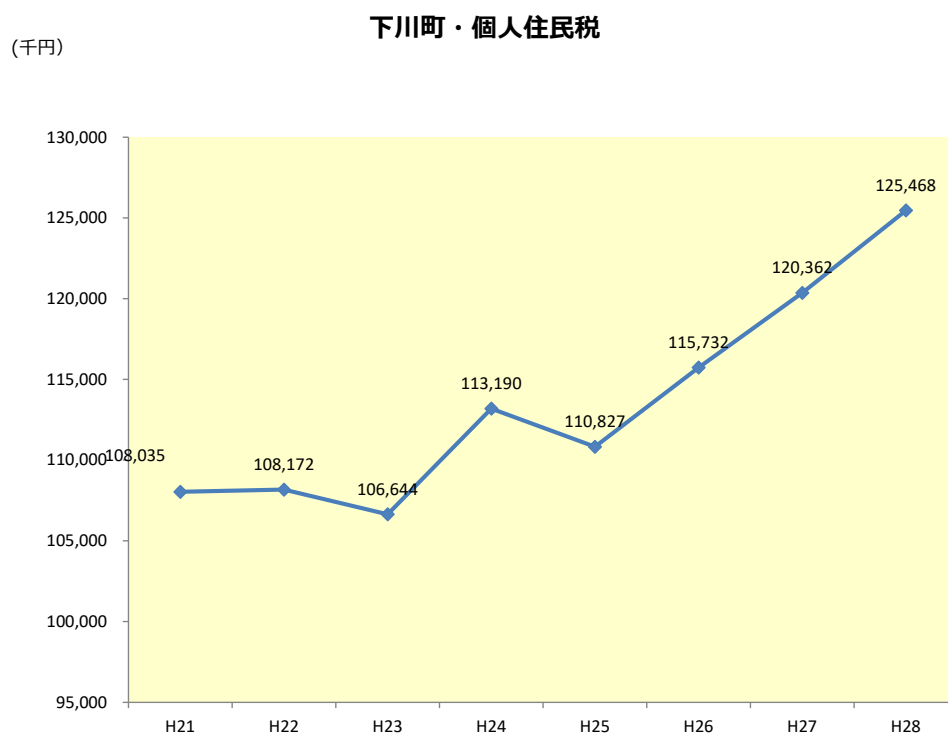
- ・ 毎年、約50ヘクタールの森林を伐採
- ・ 約50ha植林
- ・ 60年かけて成木に成長し、60年後に伐採
- ・ $50\text{ha} \times 60 = 3,000\text{ha}$
- ・ 約4,500ヘクタールの森林のうち、約3,000ヘクタールを占める人工林を、このような循環型の森林経営で活用
- ・ 下川町はいつまでも森林資源を利用し続けることができる

36

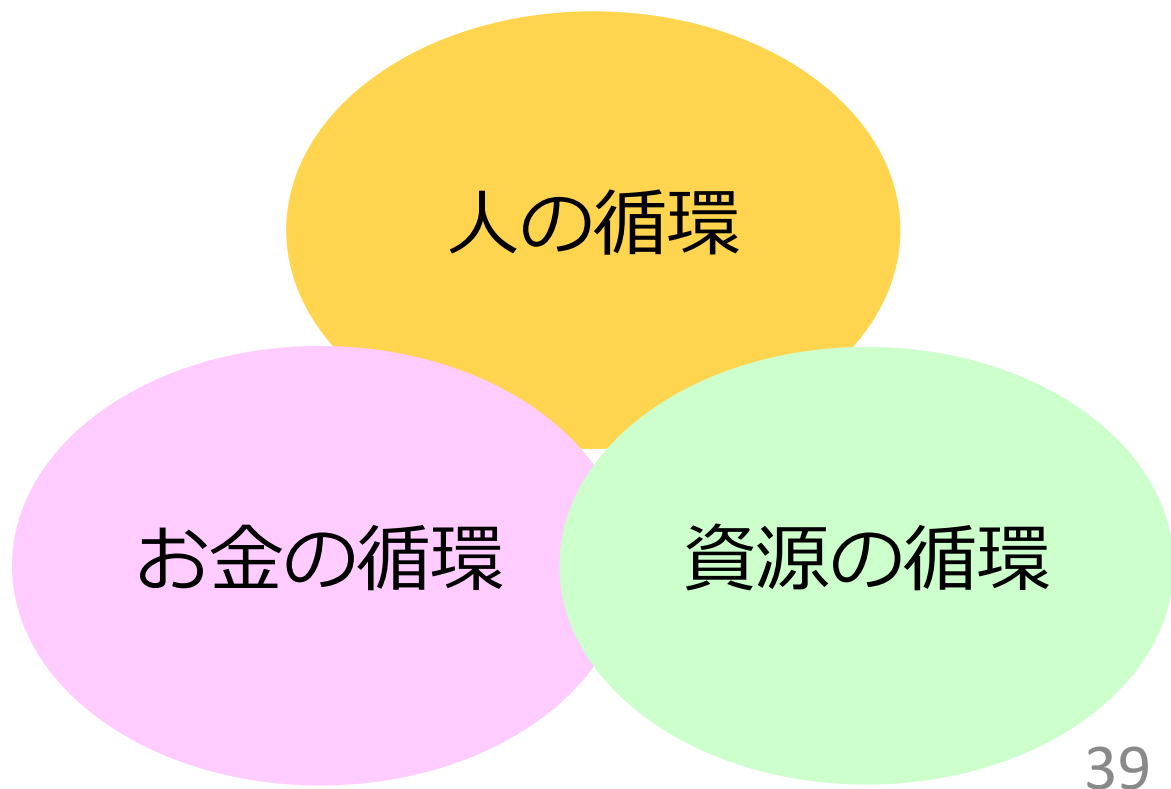
持続可能な森林のための人づくり

- 幼児センター（未就学児）から高校まで15年間にわたる森林環境教育プログラム
- 2006年から
- 園児：森林で葉っぱを集めるところから始まる
- 小学生：樹種の勉強など
- 中学生：炭を焼いて木炭作り
- 高校生：枝打ちや間伐など、本格的な林業体験

地域の経済状況も上向きに



持続可能な地域：3つの循環



SDGsウェディングケーキモデル



うまくいくために必要なもの

(1) 「ありものの探し」

ためには「よそ者」地元の資源を“発見”し、活用する
そのも大事

(2) 小さな成功事例を手早くつくっていく

41



下川りくらしネットとは

私たちは

下川町総合計画審議会SDGs未来都市部会を
きっかけに生まれた 女性グループです。

持続可能で幸せな暮らしを目指し、この町で
できることに取り組んでいます。

2019年10月現在
メンバー19名

顧問 枝廣 淳子さん



りくらし
→ Re 暮らし
→ 暮らしを見直す

下川りくらしネットのこれまで

2017年冬

SDGs未来都市部会委員だった里美さんが、
「女性の意見が取り残されてるのでは？」
と感じる

SDGs未来都市部会とは

2030年における下川町のありたい
姿を作った、町民から成る会
2017年9月～2018年3月まで会議
を重ねた

2018年はじめ

女性の意見を聞いてほしいと枝廣さんに相談。
「女子会やりましょう～」(枝廣さん)

未来都市部会でありたい姿を
皆で決めていく過程が面白くて、
枝廣さんに相談

●2018年2月21日 女子会 @ハピネス
10名程(子育てママ中心)+枝廣さん

下川のいいところ、好きなところ、嫌いな
ところ、良くないところ

すごく面白かった

下川の未来に向けて不安に思うこと

2030年にそのまま変わらないでほしいこと、
増えてほしいもの・こと、減ってほしい
もの・こと

いつも子育ての話しかしてな
かったけど、町のことを考え
るのを続けていきたい

大事だと思った





「みんなの子育てが楽しくなるように!」
そんな想いから生まれたマップです。
子どもと一緒にどこで遊ぼう?と迷った時、
このマップを参考にしてみてください。
お友達にもお貸しください!

子どもと一緒に安心! おすすめトイレ

★総合福祉センターハビネス
安原公園の最寄りトイレ。靴を脱いで入る施設です。
※40-1 (TEL 01655-4-3356) 9:00-21:00 日曜・祝日休

★下川町公民館
安原公園からはハビネスと同等の近さ。1階の多目的トイレに、
子ども用の設備が一掃揃っています。
※95 (TEL 01655-4-2511) 9:00-21:00

★まちおこしセンター コモレビ
ちびっこ広場の最寄りトイレはスターミナルですが、小さな子向けの
設備を求めているならこちらへ。授乳室もあります。
※1-1 (TEL 01655-4-2718) 9:00-21:00

★3箇所すべてホールでの休憩や飲食可。自動販売機あり。
このマップは「くらし+R+暮らし」
「アライヴ+暮らし」は下川町総合計画部会「SDGs
未来都市部会」をきっかけに生まれた女性グループです。
持続可能なまちを暮らしを自覚し、この町で暮らすこと
を取り組んでいます。
▼マップに関する意見・お問い合わせはこちらへ
rekurashinet@gmail.com



1 安原公園
設備のすぐ横。幼児向けのクラ
イミング遊具や土管があります。
大きな木に囲まれた公園で、日
向ぼつて遊ぶだけでも気持ちい
です。トイレはハビネス
または公民館へどうぞ。
※73



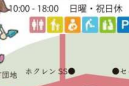
7 フレベ広場
(桜ヶ丘公園)
町内で一番大きな公園。大型
アスレチックや砂場もあるよ。
実の木の木がたくさんあって、
夏から秋にかけては木の葉の
緑が美しいです。自転車の
乗り場として活用。
▼センターハウス フレベ
西町 100 (TEL 01655-4-2088)
9:00-17:00 月曜休



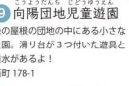
8 長城公園
(桜ヶ丘公園)
万里の長城で囲まれた。春には
桜がきれいな公園。ふるさと交
流館の「昔の遊びコーナー」で
は、めんこやけん玉を体験でき
るよ。らせん階段を上ると町を
一望できる展望台! 子どもと一
起にパークゴルフもおすすめです。
▼ふるさと交流館
西町 1026 (TEL 01655-4-2627)
9:00-17:00 月曜休 (冬季休業)
大人 200 円、小中高生 100 円、
町内小中高生無料



2 町民会館 児童室
遊戯室や図書室、おもちゃが
あって、幅広い年齢の子が楽し
めます。平日午後は放課後の小
学児童で賑わうので、静かに遊び
たい場合は午前がおすすめです。
▼図書室と図書室横に子ども
対応トイレあり
※95 下川町民会館
(TEL 01655-4-2511)
10:00-18:00 日曜・祝日休



9 向陽団地児童遊園
緑の豊かな団地の中にある小さな
公園。滑り台が3つ付いた遊具と
噴水があるよ!
※178-1



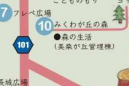
10 みくわが丘の森
まちなかに近く、誰でも気軽に散策で
きる森。月に一度、森の遊び場「みく
わの日」をやっています。毎年7月の
「森の日」ももちろんで、森に入
る時は靴や帽子の着用を忘れずに!
▼NPO法人 森の生活
南町 477 (TEL 01655-4-2606)
※トイレは最寄りのトイレへどうぞ。



3 ちびっこ広場
すべり台やブランコなど、小さ
な子向けの遊具がたくさん。唯
一鉄棒のある公園です。秋には
木から落ちる「とちの葉」
で遊ぶことも。
※13-1



5 ちびっこ広場
遊歩道には小さな坂道! 車が
来ないのて散歩やサイクリン
グをのんびりと楽しめるよ。
※西町100 (名寄川河川敷)



11 ふれあい牧場
五味温泉へ向かう途中にある、
上ヶ島さん手作りのミニ動物園。
うさぎを抱っこしたり、ヤギ、
ポニー、エミューたちとエサを
あげられるよ。選が良ければ子
うさぎにも会えるかも!
※348 入園無料 (エサ1包 100 円)



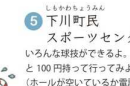
4 B&G 海洋センター
6~9 月限定でオープンする加温
プール。浅いプールもあるよ!
※349-3 (TEL 01655-4-2915)
7/1~8/31 は 10:00~20:30
6/1~6/30 と 9/1~9/30、毎週月
曜は午後のみ (13:00~20:30)
町民大人 100 円、シーズン券有



6 名寄川緑地公園
遊歩道には小さな坂道! 車が
来ないのて散歩やサイクリン
グをのんびりと楽しめるよ。
※西町100 (名寄川河川敷)



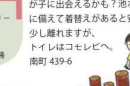
12 末広ファミリーパーク
末広団地の奥の公園。ローラー
滑り台などの遊具はモチロン、
丘あり池あり、野生に慣れた我
が子に出会えるかも! 池がチャ
に囲まれて静かな環境と安心の
少人数ですが、
トイレはコモレビへ
※439-6



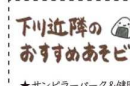
5 下川町民
スポーツセンター
いろんな球技ができるよ。上座
と100円ずつで行ってみよう!
(ボールが空いているか電話で確
認してから行くのがおすすめ!)
※351-13 (01655-4-2577)
平日 13:00-21:00、土曜 9:00-
21:00、日曜 9:00-17:00
月曜休 町民大人 100 円



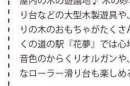
13 末広ファミリーパーク
末広団地の奥の公園。ローラー
滑り台などの遊具はモチロン、
丘あり池あり、野生に慣れた我
が子に出会えるかも! 池がチャ
に囲まれて静かな環境と安心の
少人数ですが、
トイレはコモレビへ
※439-6



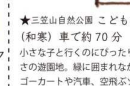
14 ふれあい牧場
五味温泉へ向かう途中にある、
上ヶ島さん手作りのミニ動物園。
うさぎを抱っこしたり、ヤギ、
ポニー、エミューたちとエサを
あげられるよ。選が良ければ子
うさぎにも会えるかも!
※348 入園無料 (エサ1包 100 円)



★サンパルク&健康の森
(名寄) 車で約 30 分
夏はふわりドームで飛び跳ねて
水のある広場で水遊び! 静かな
森には散策や幼児向けの遊具も。
キャンプ場や天文台も併設され
ていて、お弁当持参で丸一日遊べ
る公園です。交流館内に室内遊び場
があるので、雨の日でも安心。



★森の美術館 木夢 (西興部)
屋内の木の遊園地。木の砂場、滑
り台などの大型木製遊具や、手作
りの木のおもちゃがたくさん! 近
くの森(花野)で心ゆくまで自然
の音からくつろぎながら、大き
なローラー滑り台も楽しめるよ。



★山崎山自然公園 こどもの国
(和寒) 車で約 70 分
小さな子と行くのにぴったりの広
さの遊園地。緑に囲まれながら、
ゴーカートや自転車、空飛ぶウ
ィンなどのレジャーも楽しめるよ。
300 円で楽しめます。2019 年の
営業は4月28日~10月8日の土・
日・祝。夏休み期間中は毎日開園。

★トイレ
★授乳室
★子ども用トイレ
★キッズガード付トイレ
★おむつ交換スペース
★駐車場
★AED

2019年4月発行





下川女子の「豆腐プロジェクト」

「道産、せめて国産の大豆の豆腐を食べたいよね」

「国産の豆腐を置いていたスーパー、閉店しちゃったもんね」

「残ってるスーパーに頼んでみようよ」

「町のお豆腐やさんにつくってもらえないか、聞いてみようか」

...

「価格の理由で、外国産の大豆を使っているって。でも、1回に作るのが100丁だから、100丁買ってもらえるなら、持ち込みなり指定の大豆で作れるって！」

「100丁なら、分けたり呼びかけたらはけるね！」

「じゃ、道産大豆でつくってもらおう！」

「来年は、自分たちで大豆を育てて、それでつくってもらおう！」

51

うまいくために必要なもの

(1) 「ありものの探し」

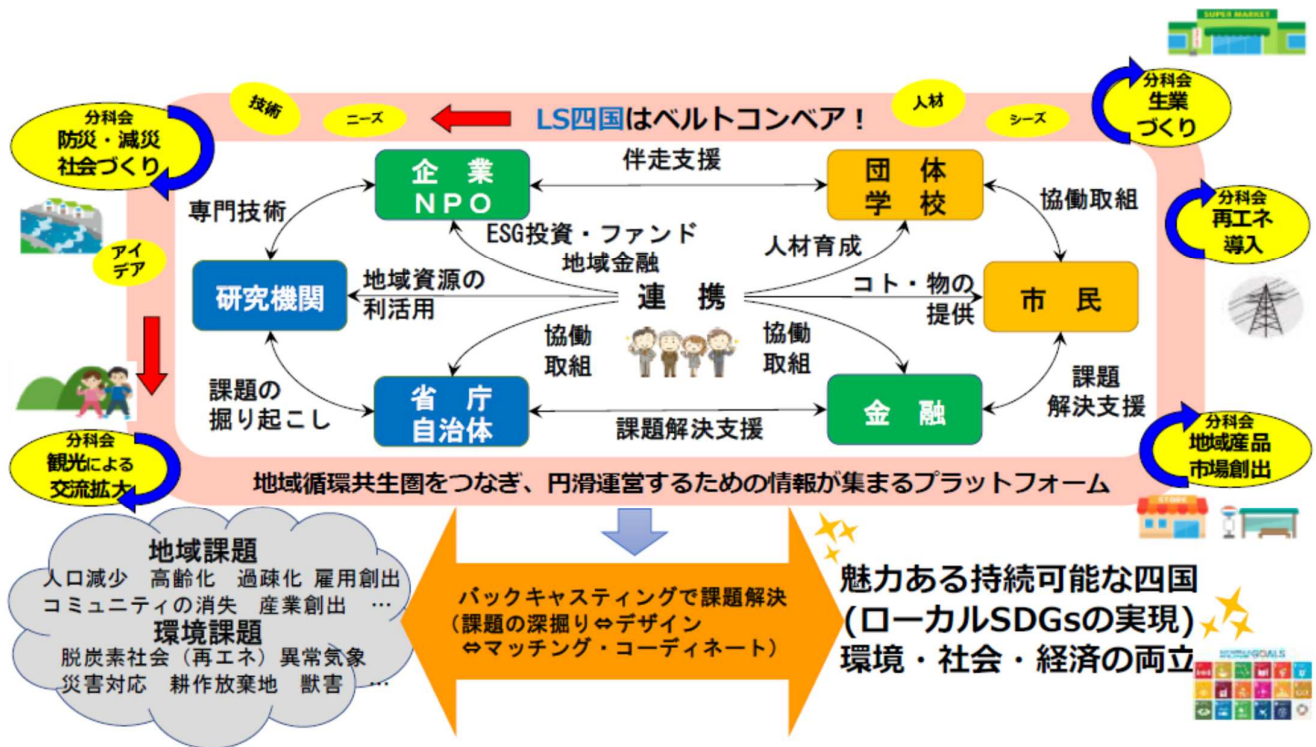
ためには「よそ者」地元の資源を“発見”し、活用する
そのも大事

(2) 小さな成功事例を手早くつくっていく

(3) 多様性のあるチームで取り組む

52

ローカルSDGsの取り組み



53

キーワード

「リ・ローカリゼーション」

Re+Localization

地域が自分たちのたづなを自分たちで握り直すために

幸せで持続可能な地域のために

54



枝廣淳子

大学院大学・至善館
幸せ経済社会研究所
有限会社イーズ

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目19-10
PF浅草橋ビル5F

Tel : 03-5846-9841 Fax : 03-5846-9665

inquiry@ishes.org

<http://ishes.org/>



LS四国分科会「四国ESDチーム」

まず、

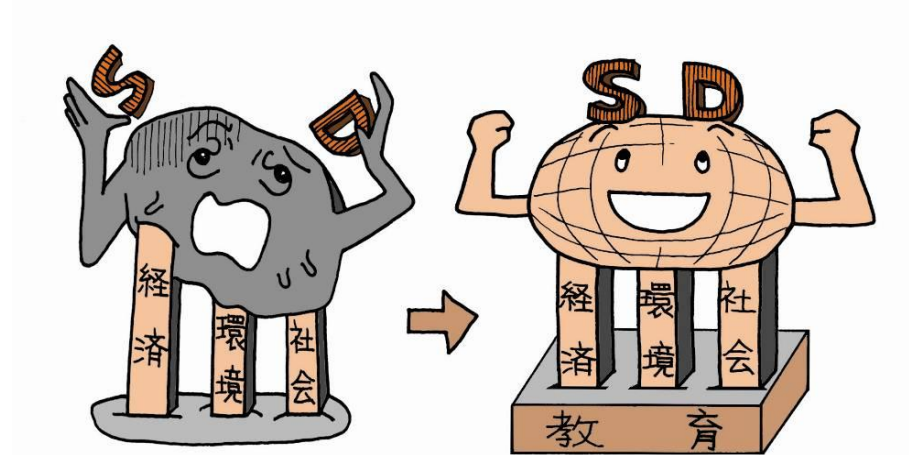
ESD



とは？

Education for Sustainable Development

= 持続可能な開発のための教育



引用:ESD-J「未来をつくる『人』を育てよう12p

ESDGS

SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発 目標を達成するための

人づくり(教育や学び) ⇔ ESD for SDGs



SDGs 目標4 質の高い教育をみんなに

4 質の高い教育を
みんなに



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

SDGs 169のターゲット（具体的な目標）

4.7

ここにESD！

2030年までに、**持続可能な開発のための教育**及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。



LS四国分科会「四国ESDチーム」

何をするの？

- ・教育を基軸とした
取組内容の検討
- ・ESD拠点ネットワーク
との協働

フェアトレード
商品開発

ESD・SDGs
エコツアー

バーチャル
ESD大学

目指せ
持続可能な
四国！

連絡会の開催

メーリングリスト
運用による
最新情報の発信



運営体制は？

代表者：四国ESDセンター長・近森憲助

事務局：四国ESDセンター

**メンバー：地域ESD活動推進拠点
(地域ESD拠点)**



地域ESD拠点とは

- 学校や社会教育の現場で
ESDを支援・推進する組織や団体を
「ESD拠点」として登録するしくみ

【2020.12現在 登録数：136件】

- 四国では2021年2月現在
12カ所の地域ESD拠点が登録



LS四国分科会「四国ESDチーム」

四国の地域ESD拠点紹介

(2021/2現在、12拠点)

① 新居浜市教育委員会



⑨ うどんまるごと循環プロジェクト



② 高松ユネスコ協会



③ IKEUCHI ORGANIC
株式会社



⑦ 株式会社平野 平野薬局



⑧ NPO 法人
えひめグローバルネットワーク



⑥ 室戸ジオパーク
推進協議会



⑩ 一般社団法人そらの郷



⑤ 株式会社
土佐山田ショッピングセンター



⑫ 株式会社 井上組



⑪ パンゲアフィールド





地域ESD拠点の取り組み事例

愛媛

I
IKEUCHI
ORGANIC

IKEUCHI ORGANIC株式会社

誰一人として犠牲にしないものづくりを目指し、タオル作りを中心とした企業活動を展開している。このような企業活動に加え、蓄積した経験や成果をオープンハウスや研修会講演などで広報することを通して、SDGsの達成に寄与。





地域ESD拠点の取り組み事例



うどんまるごと 循環コンソーシアム

香川



うどん残渣や食品廃棄物からバイオガスを作り発電する「うどん発電」や、バイオガス発生時の残差から肥料をつくり、その肥料を利用して小麦を栽培しうどんを作る、という循環プロジェクトを実施。
エコツアーや講座を通して、未来を担う子どもたちへの環境教育と県内外への普及啓発にも力を入れている。



事務局ご紹介



四国地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

■環境省と文部科学省が開設

(受託団体:えひめグローバルネットワーク)

■ESD実践のためのサポートメニュー

- ①情報収集・共有
- ②学び合いの場・ネットワークづくり
- ③コンサルティング
- ④人材育成



LS四国分科会「四国ESDチーム」

事務局ご紹介



四国地方ESD活動支援センター

Education for Sustainable Development

場所：香川県高松市寿町2丁目1-1 高松第一生命ビル
(JR高松駅から徒歩5分)

電話：087-823-7181

開館：月～金 9:00～18:00

■徳島サテライトデスク

徳島市西新浜町2丁目3-102
エコみらいとくしま内

■愛媛サテライトデスク

松山市東雲町5-6
(特活)えひめグローバルネットワーク内

■高知サテライトデスク

高知市旭町3丁目115
こうち男女共同参画センター「ソーレ」3階
(認活)環境の杜こうち内





LS四国分科会「四国ESDチーム」

四国ESDフォーラム2021

(日本ESD学会第2回四国地方研究会)

3月14日(日)

～日本ESD学会、愛大・ESDラボと共同開催～

①基調講演

見上 一幸氏(日本ESD学会・会長)

②高校生×大人ESDトーク

四国各県の高校生による活動紹介の後、
参加者の皆さんと一緒にESDについて語り合います

③分科会

- 日本ESD学会員による自由研究発表
- ESD・SDGsツアー
- ESD教材・カリキュラムづくり
- 企業×ESD

四国ESDフォーラム

2021

(日本ESD学会 第2回 四国地方研究会)

参加費無料
オンライン
参加OK!

3月14日(日)
10:00～16:15

A. オンライン参加
Zoom

B. 会場参加
愛媛大学教育学部
(愛媛県松山市文京町3番)
定員 200名
(会場/Zoom各100名)

※新型コロナウイルスの影響によりオンラインのみの開催となる場合がございます。ご了承ください。
※国の緊急事態宣言または自治体から緊急事態宣言に準じた発令が発出されている地域にお住まいの方は、オンラインでの参加をお願いいたします。

ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) は、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) 達成において重要な役割を果たします。
四国地域におけるESD実践事例の紹介、意見交換などを通して、これからの四国のESDや持続可能な地域づくりについて一緒に考えます。ここから新しいアイデアが生まれるかもしれません。オンライン参加もできますので、ぜひこの機会にご参加ください。

基調講演「学校教育におけるESD&SDGs」
見上 一幸氏(日本ESD学会会長)

「高校生×大人 ESD トーク」
高校生の活動紹介の後、参加者の皆さんと一緒にESDについて語り合います!

四国の高校生の活動がわかる!

分科会

1 日本ESD学会員による自由研究発表	2 ESD・SDGs ツアー
3 ESD教材・カリキュラムづくり	4 企業×ESD

問合せ・申込み 申込締切 3月9日(火)
※詳しくは裏面をご覧ください

四国地方ESD活動支援センター(四国ESDセンター)
TEL:087-823-7181 FAX:087-823-5675 メール:info@shikoku-esdcenter.jp

主催 ● 四国地方ESD活動支援センター、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、日本ESD学会、愛大・ESDラボ
協力 ● 四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)
後援 ● 愛媛大学教育学部・教職大学院、ESD活動支援センター(2月4日発表)

ESDはSDGs達成にとても重要な役割を果たします
ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。
現在、世界には、環境・資源・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。
ESDとは、地球に存在する人間を含めたあらゆる生物が、遠い未来までその繁栄を続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分自身で考えること、実践していくこと(think globally, act locally)を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育です。
文科省ホームページより <http://www.esd-japan.net/2017/04/04/esd/>

オンライン参加もできます。
ぜひお申込みください!



ESD for 2030

SDGs達成に向けて活動を展開！



ローカルSDGs四国 地域エネルギー分科会

第五次環境基本計画を四国で
具体化・事業化する

2021.02.17

理念・方針・組織

理念 『四国のみらい = RE自立 × 中小企業憲章』

課題と方針

- ① 四国の資源を活用した再エネの導入
- ② 健康で心豊かな暮らしの実現 **の事業化**

組織

四国4県中小企業家同友会環境経営委員会+市民



① 四国の資源を活用したREの導入

- 四国地域新電力の推進 REアクション
- 営農型太陽光熱発電の推進
- 未利用系バイオマス資源(木質・廃棄物等)を活用した地域づくり
- 小水力発電の推進、水利用の改善
- REによる地域づくりに関する環境金融の拡大

②健康で心豊かな暮らしの実現

- 低炭素で健康な住まい ZEHの普及 住宅の高断熱・高気密改修の推進
- 食品ロス削減の推進
- 徒歩・自転車移動による健康寿命の延伸
- テレワークなど働き方改革の推進 環境面における効果の「見える化」
- 新たな木材需要の創出 CLTなど木材利用拡大
- エコツーリズムなどの推進
- 鳥獣捕獲強化・害獣被害対策
- マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策の推進
- 農福連携 6次産業化の推進

11 住み続けられる
まちづくりを



環境経営委員会（愛媛県中小企業家同友会）

2020年度活動の振り返り
&

2021年度何する？

- ・ 2020年度は学習の年
- ・ 2030年の未来希望図



- ・ 2021年度、事例を作ろう！！！！

- ①野間地区再エネプロジェクト@今治
- ②LED'S・ZEH・REアクション
- ③バックアップ、フォロー

2/14(日)10時～16時

四国内でエネルギー自立
環境配慮が当たり前
若い人の就業機会up↗

野間地区再エネプロジェクト@今治

2 飢餓を
ゼロに



・阿方、野間小学校エリア



- ・阿方営農型発電、用水を活用した小水力
- ・野間地区の農業従事者・住民を巻き込んで、
出資・協力により集落へメリット（FITより自家消費）
- ・再エネ自家消費で有機野菜を栽培

LED'S、ZEH、REアクション

LED'Sとは

「Local Energy Direct Supply」の略。住宅の屋根に、住民の費用負担なく太陽光パネルと災害用電源としての小型蓄電池を設置するというもの。

→このシステムを同友会企業の屋根に（RE企業を増やす）

- ・CO2排出の多い中堅の製紙企業にも；四国中央
- ・市民向けにはZEH（ゼロエネルギー住宅）とともに展開
- ・ファイナンス...小口（1社20万円？）で
- ・運営形態は合同会社（LLC）について学習しつつ
LS四国とも金融面の相談、シミュレーション



バックアップ、フォロー

- ・ **再エネプロジェクトの実践をバックアップし、賛同企業を増やす**

シンポジウム、リーフレット、学習会、イベントの開催

- ・ 個々の環境イベントのフォロー

- ・ 環境経営委員会としてイベント等の予算措置

- ・ **消費者に対してムーブメントを作り、需要を創造**

→建設系企業だけでなく、消費者に近い業種を巻き込んで

(ex:食品のステークホルダー、

コープえひめ組合員30万人→4 生協へ)

4 質の高い教育を
みんなに



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



組織とファイナンス

組織：四国4県中小企業会同友会環境経営委員会+市民

責任者 愛媛：平野 事務局 愛媛：安丸・菊間 香川：藤川

委員：4県環境経営委員 市民(農民)・研究者他 企業・NPO・金融等

委員は、本業でSDGsに貢献しつつ、分科会に参加 事業化を担う

若手専従経営者を早期に決める

ファイナンス：委員有志で合同会社(LLC) 設立 ホールディングス
地域金融のESG投資 四国市民の寄付

分科会に課題別(REアクション・バイオマス発電等) 部会を組織

地消地産地商の起業に繋げる 地域限定のエネルギー自立地域を横展開
利益は、地域課題解決に充てる

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナシップで
目標を達成しよう



多文化共生・減災 ネットワーク分科会

(特非)えひめグローバルネットワーク

JICA2020年度NGO等提案型プログラム採択事業

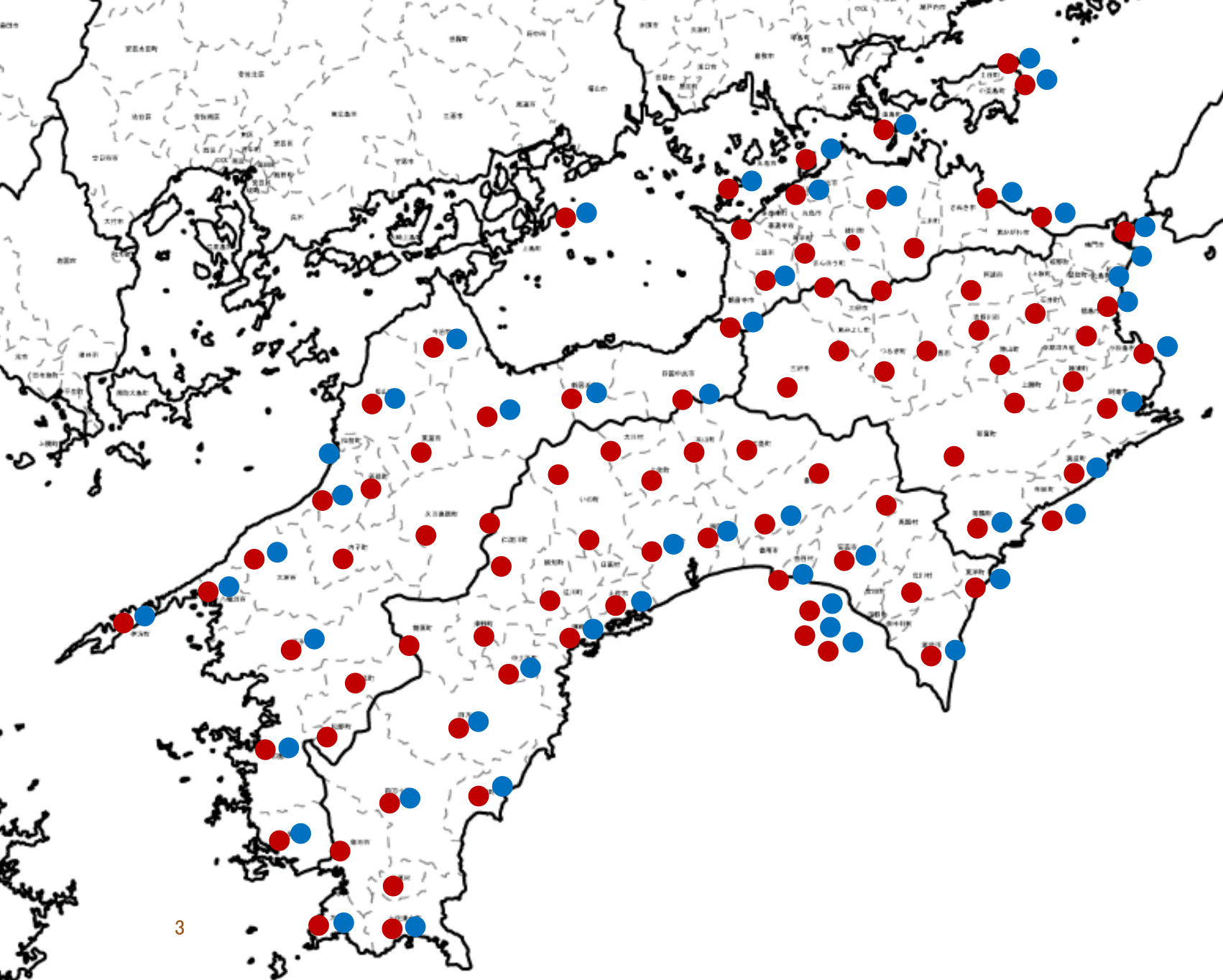
提案名：多文化共生型の減災社会づくりネットワーク形成と教材開発

四国における在留外国人総数と主要国内訳

単位:人

国籍・地域	徳島	香川	愛媛	高知	合計
総数	6,658	14,208	13,630	4,798	39,294
ミャンマー	155	510	257	86	1,008
カンボジア	156	338	226	120	840
中国	1,908	3,965	3,875	1,024	10,772
台湾	65	128	122	75	390
インドネシア	397	1,024	631	335	2,387
韓国	305	838	1,095	470	2,708
ネパール	89	226	135	56	506
フィリピン	771	2,057	2,169	751	5,748
タイ	102	136	155	42	435
ベトナム	1,876	3,416	3,624	1,160	10,076
米国	164	186	222	156	728
ブラジル	39	201	327	23	590
ペルー	13	392	56	10	471

四国における 災害危険性マップ



【凡例】

土砂災害危険区域 ●

津波浸水想定区域 ●

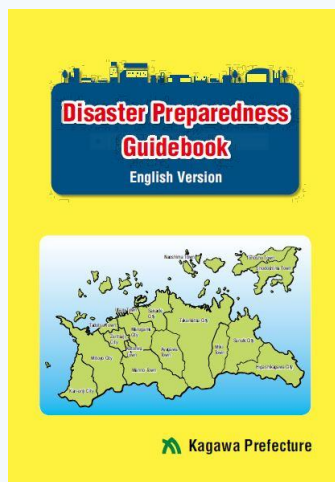
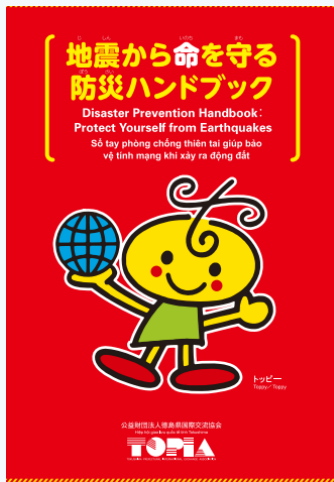
対象市町村

(四国四県ホームページ
公表資料より作成)

地図: <https://freemap.thebase.in/>

多文化共生社会にむけた減災社会づくり 各県の取り組みについて

- ・愛媛県南予地域を中心に災害復興は途上
- ・土砂災害や南海トラフ地震への備えも必要



四国の関係者間
ネットワーク
づくりは
これから！

4 四国四県の外国人向け防災ガイドブック
(各県ホームページからダウンロード)

課題解決の方向性



- 愛媛県西条市で2004年の台風被災の経験からコミュニティ防災の取り組みが始まる

5

外国人支援チーム

対象：外国人実習生、留学生、在住者、（旅行者）



- 1) 情報（マップ アプリ）をどう伝えていくか？
外国人実習生：中央会→管理団体×企業
留学生：今治明德、愛大、松大、カタリナ
在住者（1,000人）：市から？ 県から？
- 2) 非常持ち出し袋、避難所の確認、訓練に参加してもらうためには？
- 3) 避難所における第二減災のために
- 4) 個人情報カードの作成？（名前、血液型、持病、常用薬、緊急連絡先）

四国四県への
モデル展開へ
（3年間事業）

将来に向けて

多様な主体との連携



四国における多文化共生型の
減災社会づくりネットワーク



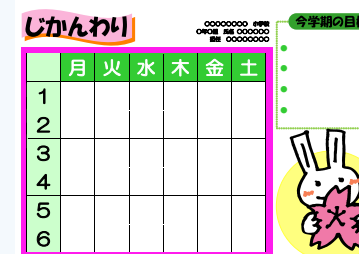
避難場所



防災訓練



教材のコンテンツ化



プログラム実践

A stylized landscape illustration featuring rolling green hills in the foreground, a small tree with purple and pink foliage on the left, and blue and white wavy hills in the background.

多文化共生・減災ネットワーク
分科会で一緒に活動しましょう！

wakuwaku@egn.or.jp